

平成27年度

いなべ市総合戦略事業取組経過報告書

(地方創生推進交付金事業取組経過報告書)

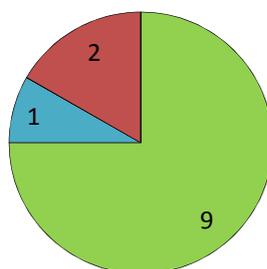
いなべ市

平成28年8月

1 しごと創生プロジェクト

基本事業数	判定A	判定B	判定C	判定D	判定なし
12	9	1	0	2	0

【判定D】
 ・地域産業創出数
 ・販路開拓件数

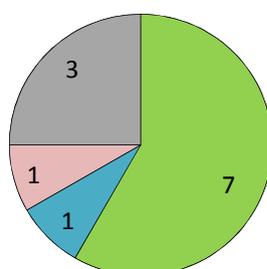


2 であい創生プロジェクト

基本事業数	判定A	判定B	判定C	判定D	判定なし
12	7	1	1	0	3

【判定C】
 ・空き家バンク登録物件の契約件数

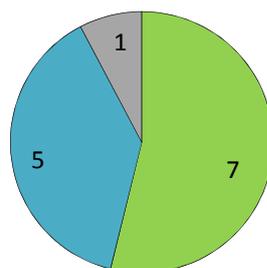
【判定なし】
 ・市内の高速道路設置延長
 ・「にぎわいの森」出店数
 ・ツアー・オブ・ジャパン観客動員数



3 みらい創生プロジェクト

基本事業数	判定A	判定B	判定C	判定D	判定なし
13	7	5	0	0	1

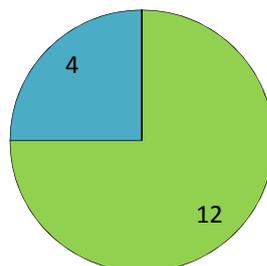
【判定なし】
 ・小中一貫教育を導入した学校数



※判定なし1件除

4 暮らし創生プロジェクト

基本事業数	判定A	判定B	判定C	判定D	判定なし
16	12	4	0	0	0



○目標達成率の算出方法と達成率の判定基準について

1 目標達成率の算出方法

目標達成率は、単年度ごとの目標値の場合には、各年度の実績値を各年度の目標値で割って算出しています。

また、目標項目が減少を目指すものである場合には、分子・分母を逆とし、目標値を実績値で割って算出しています。

$$\text{目標達成率} = \text{H27年度実績値} / \text{H27年度目標値} \times 100$$

(例) H27年度の目標値が130、実績値が120の場合

$$= 120 / 130 \times 100 = 92\%$$

※小数点以下四捨五入。

2 目標達成率の判定基準

①各年度における達成状況を市民の皆様に分かりやすくお示しするため、プロジェクトごとの基本目標や、個別事業のKPIの達成状況、取り組み実績等をもとに、達成度をA～Dで判定し、その理由を記載しています。

②A～Dの判定は、次の表1の考え方を目安としています。

【 表1 】

目標達成率	判定基準	判定
100%以上	進んだ	A
85%以上100%未満	ある程度進んだ	B
70%以上85%未満	あまり進まなかった	C
70%未満	進まなかった	D

いなべ市総合戦略 プロジェクト毎の数値目標達成状況

1 しごと創生プロジェクト

数値目標名	単位	実績値	目標値					達成率
			実績値					
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
従業者数（工業統計）	人	16,382	16,705	17,029	17,352	17,676	18,000	103
			17,169					
事業所数（工業統計）	社	176	177	178	179	180	180	101
			178					

判定	A	判定理由	企業誘致を進めたことなどにより、事業所数及び従業者数を順調に増やすことができました。
----	---	------	--

2 であい創生プロジェクト

数値目標名	単位	実績値	目標値					達成率
			実績値					
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
観光集客数	人	390,794	418,200	417,900	417,900	417,900	418,200	95
			396,797					

判定	B	判定理由	登山客やキャンプ場利用者は増加しましたが、梅まつり・ぼたんまつりは、気候や天候の影響により減少となったことから、全体的な観光集客数は、平成26年度の実績は上回ったものの達成することができませんでした。
----	---	------	--

3 みらい創生プロジェクト

数値目標名	単位	実績値	目標値					達成率
			実績値					
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
合計特殊出生率		1.42※	1.42	1.43	1.44	1.45	1.46	101
			1.44					
15歳から49歳の女性の人数	人	9,187	9,187	9,190	9,193	9,196	9,200	98
			9,039					

※平成25年度の実績。なお、平成27年度の実績は、平成26年10月から平成27年9月の期間で算出

判定	B	判定理由	平成26年度の出生数333人に対して、平成27年度の出生数は、332人に減少しましたが、合計特殊出生率は0.02ポイント上昇しました。
----	---	------	---

4 暮らし創生プロジェクト

数値目標名	単位	実績値	目標値					達成率
			実績値					
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
まちへの愛着度 （総合計画の市民満足度調査で「愛着を感じる」と回答した方の割合）	%	66.5	—	—	—	—	70.0	—
			—	—	—	—		

本数値目標は、平成31年度に実施する総合計画市民満足度調査で評価を行なう。

判定	—	判定理由	「まちへの愛着度」調査は、平成31年度予定の第2次いなべ市総合計画後期計画策定の際に実施します。
----	---	------	--

1 しごと創生プロジェクト「基本事業毎の目標達成率と判定」

基本的な方向性	基本事業	事業概要等	重要業績評価指標（KPI）名	単位
企業立地による産業の振興	企業誘致活動の推進	既存企業との定期的な情報交換会を実施し、情報収集を行います。 企業訪問によりPR活動を積極的に行います。 市内企業の魅力のPRや、雇用、就労のマッチングを行います。	企業立地件数（累計）	件
	産業用地の整備及び確保	企業進出のタイミングを見計らいながら、未利用工業団地の維持管理を適正に行うとともに、中小企業向けの小規模な用地の確保を行います。	企業相談件数（各年延べ）	件
にぎわいのある商工業の振興	商工業の活性化支援	空き店舗対策や市内進出企業の異業種交流の推進などにより、にぎわいのある商工業を推進します。	商工会への加入団体数（累計）	団体
			創業相談件数（各年延べ）	件
	中心市街地の活性化	阿下喜地区の歴史ある街並みの再開発を進め、阿下喜地区の空き店舗活用や飲食店、物販店の誘致により、中心市街地の活性化を図ります。	阿下喜地区の空き店舗活用等による出店件数（累計）	件
	地域産業創出支援の充実	都市部での農産品などのテストマーケティング及び販路の開拓を行います。また、外部人材を活用した起業、創業の相談など創業支援を行います。	地域産業創出数（各年延べ）	件
			商品開発テストマーケティング回数（各年延べ）	回
販路開拓件数（累計）			件	
女（ひと）と男（ひと）が互いに認め合うまちづくりの推進	男女共同参画の環境づくり	女性も男性も、家庭、子育て・教育、まちづくりなどあらゆる分野において、互いに認め合い、誰もが個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会をつくりまします。	審議会等への女性登用率（各年） （女性委員数／審議会等の総委員数）	%
魅力ある農林業の振興	集落を基軸にした担い手への支援	集落単位で策定した「人・農地プラン」により、認定農業者・認定新規就農者・集落営農組織を明確にして、「集落ぐるみ型農業生産活動」を推進します。 農業の有する多面的機能の維持、発揮のため、地域の共同活動や営農活動を集落ぐるみで支え合う体制の整備を推進します。	人・農地プラン策定集落数（累計）	集落
			新規就農者数（各年）	人
	安心、安全で安定した農業の振興	家畜ふん尿を適切に処理した堆肥を耕種農家に供給して、環境にやさしい資源循環型農法を推進します。 いなべ産品利用宣言の店認定証交付及びのぼり旗交付、ホームページでの広報等を行い、地産地消の活動を推進します。 市内の特産品を活用し、産業振興につなげます。特にそばについては、そば祭りを中京圏に発信します。また、手打ちそばの段位認定会を利用し、市民にそば打ちを推進します。	そば祭り入場者数（各年延べ）	人

実績値	目標値					達成率 (%)	判定	平成27年度事業評価と今後の方針	担当部
	H26	H27	H28	H29	H30				
1	2	2	3	3	4	100	A	既存企業と情報を共有するため、情報交換会を2回開催しました。 また、工業団地へ進出に関心がある企業へ訪問し、PR活動を行った結果、藤原工業団地に1件の新規企業を誘致することができました。 今後も引き続き企業訪問やPR活動を行い、企業誘致を進めます。	都市整備部
2	4	5	6	7	8	100	A	各工業団地の草刈り・剪定等を行い、適正な維持管理を行うとともに、4社の企業から敷地の拡張及び移転などの相談を受け、2件については公社用地を販売することで移転用地及び拡張用地を提供することができました。 今後も引き続き企業が相談しやすい環境づくりを進めます。	都市整備部
1,010	1,010	1,012	1,014	1,016	1,018	99	B	地域活性化イベントや商工会運営に対して補助を行なうなど、商工会加入団体の増加につながる支援を行ないましたが、廃業や事業主の死などで加入団体数は減少し、目標を達成することができませんでした。 今後は、商工会と情報交流・共有、共同宣伝等を図りつつ新規加入者の確保のため創業塾等により加入団体を募る取り組みを進めます。	農林商工部
0	2	4	8	10	12	2,850	A	商工会等と連携し創業塾を実施したことにより、目標を達成することができました。 今後も引き続き、創業相談がしやすい環境づくりへの支援を行ないます。	農林商工部
0	1	3	3	3	3	100	A	地方創生先行型交付金を活用した支援により6月に1軒、小物店をオープンさせることができました。 今後も、空き店舗等を活用した出店件数増加に向けて事業を進めます。	農林商工部
0	3	3	3	3	3	67	D	起業・創業の足がかりとなるモデル店舗を6月末に開業しました。また、ワークショップ等を通して、起業・創業を志す若者を後押しすることにより2店舗目の起業支援を行なうことができたが、目標値を達成することはできませんでした。 今後は、積極的に人材発掘を行い、起業・創業支援を進めます。	企画部
0	12	12	12	12	12	142	A	市内の飲食店や農家と連携し、目標値を上回るテストマーケティングを実施することができました。 今後も引続き顧客のニーズを確かめながら事業を進めます。	企画部
0	3	3	3	3	3	33	D	上記のテストマーケティングとあわせて、名古屋圏の事業者とのつながりを意識し事業を進めましたが、いなべ産野菜の販路開拓1件にとどまりました。 今後は、平成27年度に数件の商談がよせられましたので、商談事業者を中心に販路の開拓を進めます。	企画部
17	20	24	27	30	30	100	A	審議会等への女性委員登用率はここ数年伸び悩んでいるものの、各担当部署での取り組みの強化等により目標を達成することができました。 今後も、30%を目指し、各担当部署等への働きかけを行ないます。	福祉部
84	84	100	100	100	100	101	A	100集落のうち84集落で策定ができていますが、残り16集落に対して、集落の農業生産活動を明確にした「人・農地プラン」の策定を促進した結果、新たに1集落で策定ができ、目標を達成することができました。 今後も、引き続き残りの15集落で策定を進めます。	農林商工部
6	7	8	9	10	10	114	A	新規就農相談窓口を設置したことにより、新たに1名（水田作）が就農しました。 平成28年度は、1名の新規青年（畑作）が就農予定となっています。	農林商工部
6,000	6,000	7,000	8,000	9,000	10,000	100	A	そば祭りの開催も6回目となり、いなべのそばがブランド品として定着してきたことにより目標を達成することができました。また近年は、そば栽培農家が6次産業に取り組み蕎麦加工品での商品開発も行なっており、そばの町として拍車をかけています。 今後も人口の多い中京圏にPRを行い、いなべと言えば”そばのまち”と言ってもらえるように事業を進めていきます。	農林商工部

2 であい創生プロジェクト「基本事業毎の目標達成率と判定」

基本的な方向性	基本事業	事業概要等	重要業績評価指標（KPI）名	単位
良好な居住環境づくりの推進	空き家活用の促進	空き家バンク制度の活用により、空き家住宅の有効利用を図り、地域の生活環境の保全を図ります。	空き家バンク登録物件の契約成立件数（累計）	件
快適な道路網の充実	生活道路網の整備	国道306号新鞍掛トンネルの整備促進や国道365号バイパスの早期完成を促進します。また、県道・主要地方道では、県道四日市員弁線バイパスをはじめ、近隣市町、工業団地などを結ぶ道路網の整備を促進し、市内幹線道路の充実を図ります。 集落間や公共施設間を結ぶため、関係自治会や地権者の協力を得て生活道路や橋梁の整備を図ります。また、市道に架かる橋梁、トンネル、歩道橋などについては定期点検を行うとともに、長寿命化のための修繕工事を実施し、適正な維持管理を行います。さらに、通勤、通学などの自転車、歩行者の安全を図るため、歩道の整備を進めるとともに、交差点、歩道などのバリアフリー化を行います。	市道の改良延長（累計）	km
	高速道路の整備促進	平成27年度に東海環状自動車道の四日市ジャンクション～新四日市ジャンクション～東員インターチェンジ間、さらに平成30年度に東員インターチェンジ～大安インターチェンジ間が公表どおり開通できるよう、また、残り区間が早期に開通されるように県内及び県外の市町村と連携しながら国、県等関係機関に早期の全線開通に向け働きかけます。	市内の高速道路設置延長（累計）	km
公共交通の充実	鉄道交通の整備	三岐鉄道との連携強化を図り、三岐鉄道北勢線の利用者数の増加に向けて、多様な広報やイベントなどを開催します。	北勢線利用者数（各年延べ）	人
	バス交通の整備	地域住民の身近な交通手段として、福祉バスの効率的かつ利便性・安全性の高い運行を推進します。また、交通空白地への対応を進めます。	福祉バス利用者数（各年延べ）	人
いなべブランドの創造	グリーンクリエイティブいなべの推進	グリーンクリエイティブいなべを推進し、いなべブランドを創造します。	「にぎわいの森」出店数（累計）	店舗
	シティプロモーションの推進	都市部をターゲットとしたシティプロモーションに取り組みます。	グリーンクリエイティブいなべホームページアクセス件数（各年延べ）	件
定住・移住・交流の促進	外部人材の協力による移住交流の促進	雇用の創出や若い世代の結婚、出産、子育ての支援など、人口減少に歯止めをかけるために有効な取組について、分野の垣根を越えた横断的で一体的な事業を効果的に推進します。	地域おこし協力隊隊員数（累計）	人
魅力ある観光地づくりの推進	多様な観光施設の充実	市内外からの集客を図るため、農業公園や阿下喜温泉など、市の観光施設の維持管理を行います。	農業公園の集客数（各年延べ）	人
	イメージアップと集客力の向上	サイクルツーリズムによる自転車を活かしたまちづくりを進め、ツアー・オブ・ジャパンの定着やイメージアップと集客の向上に取り組むとともに、市内主要施設にサイクルラックや、サイクルマップ等を作成、設置し、誘客を図ります。 市の観光を支える団体の活動の活性化に向けた支援、補助を行います。 新たな観光メニューの開発に取り組みます。	ツアー・オブ・ジャパン観客動員数（各年延べ）	人

実績値	目標値					達成率 (%)	判定	平成27年度事業評価と今後の方針	担当部
	実績値								
H26	H27	H28	H29	H30	H31				
2	4	6	9	12	14	75	C	員弁町坂東新田1件、員弁町楚原1件、大安町梅戸1件、藤原町篠立1件、計4件の空き家バンク登録を行ないましたが、契約成立件数は利用者の希望条件の物件が少なく1件であり、目標を達成することができませんでした。 今後は、空き家の実態調査を行い、利用者の希望条件に合うよう登録物件を増やし契約件数の増加を図ります。	都市整備部
	3								
530	530	530	530	532	534	100	A	市道笠田新田坂東新田線道路改良工事（第27工区）（施工延長L=296m、補強土壁工A=43㎡、ボックスカルバート工L=13m）を予定どおり実施することができました。（供用未開始）	建設部
	530								
65	65	65	66	68	73	100	A	市道西方上笠田線自歩道設置工事（施工延長L=322m）及び市道大安東部線歩道設置工事（施工延長L=200m）を予定どおり実施することができました。（供用未開始）	建設部
	65								
0	0	0	0	2.8	2.8	-	-	東海環状期成同盟会において、国・県に対して早期の事業進捗要望活動を実施しました。 今後も引き続き、全線開通に向け関係市町と共に働きかけを行ないます。	建設部
	0								
2,438,911	2,449,000	2,459,000	2,469,000	2,479,000	2,490,000	104	A	本年度北勢線運営協議会のホームページリニューアル、イベント開催のチラシ配布、広報誌・新聞等の多様な広報活動と新たにナロウィン電車のイベントを実施しました。昨年度より105,463人増の2,544,374人と大幅な乗客の増につなげることができました。 今後も引き続きホームページ、新聞、広報誌など多様な広報活動やイベントの開催などにより利用者の増加を図ります。	都市整備部
	2,544,374								
99,888	102,885	105,971	109,150	112,425	116,000	102	A	福祉バス大安ルートの路線変更・ダイヤ改正などを行ったことで、利便性が向上され利用者を増やすことができました。 今後も引き続き、利用者の利便性向上に向けた取り組みを進めます。	都市整備部
	104,617								
0	0	0	0	7	7	-	-	にぎわいの森の出店者の公募を行いました。結果、7件の出店希望者があり、現在、出店に向けて具体的な条件の調整を行っています。	企画部
	0								
0	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	110	A	平成27年8月にグリーンクリエイティブいなべのホームページを開設しました。PRイベント等の告知をするだけでなく、グリーンクリエイティブいなべを実践する市民の紹介など、具体的な市内の魅力的な人々の紹介や、具体的ないなべの魅力を発信することにより、目標を上回る16,573件のアクセス件数がありました。 今後も、魅力的な情報を発信することにより、いなべの知名度を高めていきます。	企画部
	16,573								
0	11	12	13	14	15	100	A	アウトドアの魅力発信のほか、10事業で11名の隊員を委嘱することができました。（途中解雇1名含む。） 平成28年度は、隊員の地域活動の支援や新たな地域課題解決に向けて隊員を増やす取り組みを行ないます。	企画部
	11								
69,539	70,000	79,500	89,000	98,500	108,000	96	B	公園の3大事業（梅まつり、ぼたんまつり、パークゴルフ）中の「ぼたんまつり」において、気候・天候の影響により、集客数が減少したことにより、全体として目標を達成することができませんでした。	農林商工部
	67,174								
140,566	141,000	141,250	141,500	141,750	142,000	101	A	レストラン業者の再募集、売店・自販機の直営化、設備の充実、入浴促進PRを実施したことにより、微増ですが、入浴者を増やすことができました。 今後も、入浴促進PRの充実などにより入浴者の増加を図ります。	農林商工部
	141,973								
0	-	20,000	22,000	24,000	25,000	-	-	自転車によるまちづくりを進める中、第18回ツアー・オブ・ジャパンいなべステージが開催されることとなり、18,000人の観客動員がありました。 今後は、自転車安全教室の開催、サイクルマップの充実、キアンサイクルと連携した自転車レースを誘致するなど、自転車のまちとしてのイメージの定着と集客の拡大を図ります。	農林商工部
	18,000								

3 みらい創生プロジェクト「基本事業毎の目標達成率と判定」

基本的な方向性	基本事業	事業概要等	重要業績評価指標（KPI）名	単位
子どもと母親の健康の確保	子どもと母親の健康の確保	保健師、栄養士などの専門職による教室や自宅訪問により、相談、指導を行うことで、住み慣れた地域で安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進します。	こんにちは赤ちゃん訪問率（各年） （訪問した赤ちゃんの数/出生数）	%
			不妊治療の助成申請者数 （各年延べ）	人
創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進	地域に開かれた学校づくりの推進	未来いなべ科、学援隊事業、コミュニティ・スクールの各事業を密接に関連づけ、それぞれの事業での地域との交流及び支援の機会を増やすとともに、支援内容の広がりを図り、特色ある学校づくりを推進します。	各校に登録する学援隊員数 （累計）	人
「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成	確かな学力の向上	小学校、中学校全学年を対象に、学力調査を実施します。 少人数教育や特別支援教育等を充実させるために非常勤講師を配置し、児童生徒の「生き抜く力（豊かな心、確かな学力、健やかな体）」を育成します。 学級満足度調査（QU）を実施し、いじめや不登校の未然防止や、学習意欲の向上、居心地のよい学級集団づくりに活かします。	全国学力学習状況調査、「国語の勉強が好き」と答えている小学6年生の割合 （各年）	%
			学級満足度調査（QU）において、満足群に位置する児童・生徒の割合（各年） 「小学校」	%
			学級満足度調査（QU）において、満足群に位置する児童・生徒の割合（各年） 「中学校」	%
	小中一貫教育の推進	各校の地域的な特色を活かしたテーマ（環境、食育、国際理解、福祉など）による学習活動の充実を図ります。 ゲストティーチャー等を活用することで地域との交流促進を図ります。 体験活動、アクティブラーニングによる教育内容の深化を図ります。	小中一貫教育を導入した学校数 （各年）	校
保育サービスの充実	保育サービスの充実	利用者の多様なニーズを十分にふまえた保育サービスの提供体制を整備します。 すべての人が、子育てに対する不安や負担を抱え込むことなく、ゆとりをもって子育てができるよう、きめ細やかな保育サービスをより一層充実します。 子どもを預かる場所の充実により、子育てと仕事を両立できる環境を整備します。	待機児童数（各年）	人
			放課後児童クラブ設置箇所数 （累計）	箇所
地域における子育て支援の充実	地域における子育て支援の充実	地域の実情に合わせ、子育て家庭が社会において孤立しないよう、家庭や地域、企業、学校、保育園等がそれぞれの機能を発揮するとともに連携を強化し、身近な地域における子育て支援を推進します。 子育て支援センターを中心に、地域ぐるみの子育てを推進します。また、子どもの社会性を育むため、子どもたちが仲間や地域の人と触れ合う場へ参加できる施設や事業の充実を図ります。 乳幼児と保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育ての相談、情報の提供、助言を行います。また、市民参加による子育て支援を充実させます。	ファミリーサポートセンター会員数（累計）	人
			子育て支援センター利用者数 （各年延べ）	人回
子どもの発達を支えるチャイルドサポートの充実	チャイルドサポートの充実	子どものライフステージにあわせ、母子保健、保育、教育、障がい福祉の各部門が連携し、発達に支援を要する子どもを、出生から就労まで途切れなくつなぎ、支援します。	子どもの発達にかかわる相談件数（発達検査等を含む）（各年延べ）	件
			個別療育・小集団療育を受ける子どもの数（各年）	人

実績値	目標値					達成率 (%)	判定	平成27年度事業評価と今後の方針	担当部
	実績値								
H26	H27	H28	H29	H30	H31				
99	100	100	100	100	100	99	B	里帰り出産や産院等に入院中の対象者を除き、赤ちゃん訪問事業の対象家庭すべてを訪問し、赤ちゃんの成長や健康状態について把握することができました。なお、訪問できなかった家庭に対しては、自宅へ帰られた時期を確認し、実施しています。 また、産後支援を必要とする母子に対して、医療機関等で日帰りまたは宿泊で心身のケアや育児サポート等を行うことで、母親の心身の安定を図るとともに育児不安を解消し、安心して子育てができる支援体制を整備しました。	健康こども部
	99								
21	22	23	24	25	27	127	A	不妊に悩む夫婦に対し、不妊治療による経済的負担の軽減を図るため、不妊治療費の一部を補助（17人 891,580円）しました。	健康こども部
	28								
1,400	1,500	1,600	1,700	1,700	1,700	106	A	未来いなべ科の授業やコミュニティ・スクールの取組に支援隊など地域人材の支援・協力を得、地域に根ざした特色ある学校づくりを進めることができました。また、新たに、放課後子ども教室との連携による土曜授業や、いなべ総合病院との連携による「命の授業」など、支援内容の広がりを作ることができました。	教育委員会
	1,594								
53	55	55	55	55	55	96	B	年度当初に「いなべ市学力向上推進計画」を作成し、次の5項目を中心に各校が取り組みを進めました。 ①学習の基盤づくり ②学ぶ意欲や高い「志」の育成 ③学ぶ習慣の確立 ④基本的な生活習慣の確立 ⑤学力向上の計画的実施	教育委員会
	53								
57	57	57	57	57	57	98	B	QU結果を授業で活用することを目的として、外部講師を招聘して、分析方法や活用方法、実践事例等を学ぶため、年間2回のQU研修会を実施しました。 また、今年度は、初任者研修会で、QUの分析方法についての研修会を実施しました。	教育委員会
	56								
67	67	67	67	67	67	100	A	QU結果を授業で活用することを目的として、外部講師を招聘して、分析方法や活用方法、実践事例等を学ぶため、年間2回のQU研修会を実施しました。 また、今年度は、初任者研修会で、QUの分析方法についての研修会を実施しました。	教育委員会
	67								
0	0	0	5	15	15	—	—	小中一貫教育の導入に向け、いなべ市教育研究会と連携しながら、推進方法の検討と準備を進めました。 小中一貫教育カリキュラムの検討をはじめ、推進の中心となる組織の設置準備を進めました。 また、保護者に対してはリーフレット「いなべ市の小中一貫教育」を作成し、取り組みの概要といなべのめざす教育の方向性を知らせました。	教育委員会
	0								
0	0	0	0	0	0	100	A	延長保育などのニーズを踏まえた保育サービスを提供しました。保育の質の向上を図るため専門研修や公開保育に積極的に参加し、市独自の分野別研修、チャイルドサポート計画に基づく特別支援保育研修、各園内研修を行いました。保育施設の環境整備では、ほくせい保育園の建設、員弁東保育園の建設準備、員弁西保育園の民営化を行いました。	健康こども部
	0								
7	8	9	9	10	10	100	A	各クラブにおいては大きな事故やトラブルもなく、適正な運営が行われました。 教育委員会は言うまでもなく、学校、発達支援課等との連携及び協力を強化し、放課後児童クラブの運営をサポートしていく必要があります。 員弁東小学校区「サクラ」の運営準備を行いました。	教育委員会
	8								
317	280	290	300	310	320	116	A	NPO法人へ委託しているファミリー・サポート・センター事業は、利用者のニーズに応じた事業を行いました。 地域で子育てを支援する本事業の体制に必要な会員数は、子育て支援センター等でPRを行った結果、増加させることができました。	健康こども部
	325								
40,455	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	100	A	おでかけGoによる出前ひろば・出前テントひろば取り組みの充実により、子育て支援センター利用者数は、目標値を下回りました。 今後は、子育て支援センターにおけるイベント等の充実を図り利用者数の増加に取り組みます。	健康こども部
	37,973								
209	220	230	240	260	280	98	B	保育園や小中学校からの働きかけもあり、保護者からの相談件数は伸びてきています。 今後は関係各課で実施してきた相談事業を整理しながら内容をより充実させる必要があります。	健康こども部
	216								
14	14	14	14	14	20	93	B	年長児・年中児を対象とした小集団療育教室（それぞれ8回）を実施しました。保護者の子育てや就学に関する悩みに対して臨床心理士や発達支援アドバイザー等による相談も行いました。 また、未就園時を対象とした親子の個別療育教室（5回）を実施し、個人に応じた支援を行うとともに保護者の相談にも行うことができました。	健康こども部
	13								

4 暮らし創生プロジェクト「基本事業毎の目標達成率と判定」

基本的な方向性	基本事業	事業概要等	重要業績評価指標（KPI）名	単位
高齢者が笑顔で自分らしく暮らせるまちづくりの推進	高齢者の包括的な支援の充実	複雑化する地域の高齢者の問題に対応できるよう、介護予防や認知症高齢者への支援、権利擁護など、地域包括支援センターの充実強化を図ります。	地域包括支援センターにおける総合相談件数（各年延べ）	件
	高齢者が地域で安心して暮らすための支援	専門職の適正配置や地域の見守りにより、認知症の早期発見・早期対応のほか、高齢者虐待への対応など、高齢者が安心して生活できる環境づくりを行います。	認知症サポーター数（累計） 見守りネットワーク協力団体数（累計）	人 団体
	高齢者の元気づくりの推進	就労の機会や社会参加の機会を保ちながら、自ら介護予防に取り組み、心身ともに元気で生きがいを持って生活できる体制づくりを行います。	元気リーダーコース実施箇所数（累計） シルバー人材センター登録会員数（累計）	箇所 人
地域でいきいきと安心して暮らせる障がい者福祉の推進	障がい福祉サービスの充実	住みなれた地域で自立した生活が維持できるよう、農業を通じた障がい者の雇用を確保します。また、農業従事者と地域の人々との相互理解も深めていきます。	農を通じた障がい者雇用数（各年）	人
地域医療体制の充実	救急医療体制の確保	医療機関との多様な主体の連携などにより、地域の一次、二次救急医療体制を確保します。	いなべ総合病院の診療科数（各年）	科
	医療従事者の確保	地域医療体制を維持するために、医療機関の勤務医を確保します。	いなべ総合病院の医師数（研修医含む、各年）	人
安全で安心な危機管理対策の推進	危機管理体制の整備	市民の日常の防災意識の向上に取り組むとともに、災害時に適切な情報発信が行える体制を構築します。	防災講演受講者数（累計延べ）	人
	組織強化による消防力向上	企業に協力を求め、消防団員数の確保を進めるとともに、消防団員の資質向上をめざすほか、様々な形で積極的に消防団活動への支援を行います。	消防団員数（累計）	人
	災害に強いまちづくり	災害時には隣近所同士の助け合いが重要であるため、自主防災組織設立に向けた支援を行います。	自主防災組織設置数（累計）	自治会
安心して暮らせる犯罪のないまちづくりの推進	地域防犯体制の充実	地域の防犯意識を高め、防犯活動を行う団体に対し、パトロール物品等を貸与します。	防犯ボランティア団体結成数（物品貸与自治会含む）（累計）	団体
地域の助け合いによる福祉の充実	地域福祉活動の充実	地域福祉を充実させていくために、市民による福祉活動が、自主的、自発的に行えるよう、社会福祉協議会等の活動支援を行います。 地域活動推進のために、市民が互いに協力し、主体的な福祉活動が展開されるよう、各種機会の提供や相談等を行います。	民生委員から地域包括支援センターへの相談件数（各年延べ）	件
			市民感謝祭参加者数（各年延べ）	人
市民が主役のまちづくり	コミュニティ組織の強化支援	自治会の独立性や主体性といったコミュニティ意識の醸成を促すため、広報等の配布や地域の環境衛生に関する事業などを実施します。 集会場や公園遊具などのコミュニティ施設を充実させるため、積極的にコミュニティ助成事業（宝くじの社会貢献広報事業）を自治会に斡旋します。	自治会加入世帯数（各年）	世帯
			グリーン・ツーリズムの拠点件数（累計）	件

実績値	目標値					達成率 (%)	判定	平成27年度事業評価と今後の方針	担当部
	実績値								
H26	H27	H28	H29	H30	H31				
3,877	3,000	3,000	3,000		4,000	150	A	地域包括支援センターの認知度も上がっており、総合相談件数も目標値を大きく上回っています。関係機関からの談件数も増加しており、多職種連携も進んでいます。	福祉部
	4,506								
6,269	6,500	7,000	7,500		6,700	106	A	市内学校の理解もあり、キッズサポーター数も増加しています。引き続き各種団体等に協力を要請していきます。	福祉部
	6,872								
298	310	320	330		350	100	A	地域包括支援センターから、新規介護サービス事業所及び市内の遊戯施設に見守りネットワークの協力を依頼し、協力団体数の増加を行いました。次年度も引き続き協力依頼を実施していきます。	福祉部
	311								
68	70	75	80		78	110	A	元気リーダーコースの実施箇所数は、順調に増加しています。今後は、継続できる体制やネットワークをより充実していきます。	福祉部
	77								
762	800	820	840	860	880	93	B	事業及び会員拡大のため、全戸に新聞折込や月1回説明会をし事業紹介及び会員募集を行いました。受注件数は、増加しましたが会員数は、未達成となりました。要因は、定年後再雇用制度の導入が促進されたことが考えられますが、就労の機会の観点から、大きく評価ができません。	福祉部
	743								
39	42	45	49	53	57	110	A	障害特性に合わせた農作業の調整等により、46人の雇用を確保することができました。今後も引き続き、農作業の調整等を図り、また、収穫の喜び、達成感を感じることができる場所の提供を進めます。	福祉部
	46								
22	22	22	22	22	23	95	B	一次救急医療体制（在宅休日当番制）・二次救急医療体制（病院群輪番制）について、事業実施団体との調整を行い、継続した事業の実施につなげました。なお、全国的な医師不足から目標数の診療科を設置できていませんが、引き続き、医師奨学金貸付制度などを活用して医師確保を進め、診療科の確保につなげます。	健康こども部
	21								
36	38	40	42	44	45	100	A	市内の医療機関で臨床研修を受け、引き続き勤務しようとする医学生2名に対して、在学中の奨学金を貸付けることで医師を確保することができました。	健康こども部
	38								
750	1,000	1,200	1,400	1,600	1,750	105	A	自治会、老人会、PTAなどを対象に計10回開催し、新たに300人が受講しました。防災講演では、備蓄、非常持出品の準備、家具転倒防止対策など家庭でできる予防対策をはじめ、災害発生時に正しい知識と判断をもって行動できるように防災知識の普及と啓発を行いました。	総務部
	1,050								
321	327	327	327	327	327	98	B	消防団入団促進の協力を得るために企業訪問を行い、消防団活動への理解と協力は得られましたが、定員の団員を確保することができませんでした。	総務部
	321								
62	64	65	66	67	68	97	B	自主防災組織が活発に活動できるように防災訓練の指導や資材整備補助をするなど、自主防災組織の支援を行ないました。防災訓練3件、資材整備補助5件 次年度は、自主防災組織の結成を推進します。	総務部
	62								
44	45	46	46	47	48	111	A	主に自治会による団体結成機運の高まりにより、防犯ボランティア団体数を増加させることができました。次年度以降も自治会等に結成を呼びかけていきます。	総務部
	50								
169	170	171	172	173	175	111	A	民生委員の積極的な活動により、地域包括支援センターへの相談件数が増加しました。	福祉部
	188								
3,500	3,520	3,540	3,560	3,580	3,600	102	A	市民感謝祭への参加者数は、増加傾向にあり平成27年度は、医療介護フェアと同時開催したことにより参加者の増加につながりました。	福祉部
	3,600								
10,908	10,910	10,930	10,950	10,980	11,000	100	A	各自治会の勧誘活動などの成果により、自治会加入世帯を増加させることができました。次年度以降も自治会加入者が増加するよう自治会と協力して活動を行っていきます。	総務部
	10,916								
0	3	3	4	4	5	100	A	グリーン・ツーリズムのモデル地区において、今年度は、3地区で地域の人を講師とした体験・交流イベントが立案されるなど、グリーン・ツーリズムを推進するための態勢が整いました。今後も引き続き、地区が自主的に活動できるように支援を進めます。	企画部
	3								

5 地方創生交付金事業「基本事業毎の目標達成率と判定」

交付金の名称	事業名	事業概要等	重要業績評価指標（KPI）名	単位
地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）	地域産業創出事業	いなべ市の豊かな自然を活かした「アウトドアライフ」と、いなべ市の風土から生まれる「農と食」を活かした地域産業の創出と販路の開拓を総合的に支援します。	創業件数	件
			創業相談件数	件
			創業のための講習会開催回数	回
			商品開発テストマーケティング回数	回
			販路開拓数	件
	グリーン・ツーリズム推進事業	いなべ市の豊かな自然と都市圏からの良好なアクセスを活かした、「グリーン・ツーリズム」の推進により、観光振興につなげる。	GTのコンテンツ開発件数	件
			GT新規集客数	人

実績値	目標値					達成率 (%)	判定	平成27年度事業評価と今後の方針	担当部
	H26	H27	H28	H29	H30				
0	3					67	D	<p>創業件数、商品開発テストマーケティング回数及び販路開拓数は、「1しごと創生プロジェクト」で記載したとおりです。 創業相談件数は、目標の30件を上回る56件の相談があり、目標を達成することができました。 また、地域産業の抄出に係る交流会、講演会、プロモーション開催回数においても目標のを達成することができました。 今後も講演会の開催などにより、潜在的な起業・創業希望者を発掘し、創業相談件数を増やししながら、起業件数を増やす取り組みを進めます。</p>	企画部
0	2					187	A		企画部
0	30					117	A		企画部
0	56					142	A		企画部
0	6					33	D		企画部
0	7					100	A		企画部
0	12					—	—		企画部
0	17								
0	3								
0	1								
0	3								
0	3								
0	—	—	10,000						
0	0								